

山田さんのお金の使い方

たくさん稼ぐ人 = お金持ち ではない。

豪華な外車に乗ってイタリアのスーツを着ていても、実はカードローン地獄だったりしたら、その人はただの「浪費家」だ。

たくさん稼いでもその分を全部使えば差し引きゼロ。一文無しだ。

そもそも、本当のお金持ちはお金にならないものは買いません。車や家は負債であることを知っているから、高値で買いません。

だから、お金の使い方を知らない宝くじに当たった人は、高価な家や車、お酒などを買い。また無一文になるのです。

お金持ちになる人は、お金の貯め方、使い方を知っている人だ。

だから収入が特別多くなくてもお金を増やしていける。増やしたお金を正しく使うから、もっとお金が集まってくる。

だから、僕が気をつけていることを今から書いていきます。

1. 財布の中がいつもきれい

あなたの財布の中はきれいだろうか？

お札の向きは揃っているだろうか。

古いレシートがぎっしりと入ったままになっていないだろうか。

使いもしないポイントカードで財布がパンパンになってしまっていないだろうか。

お金が貯まる人になるには、まずお金を大切に扱うことから始めよう。

そしてレシートが入ればなしということは、お金の出入りの管理ができていないこと。

日々のお金の管理はきちんと記録しよう。

財布の中身が整っていない人は、まずは無駄なものを取り除きお札の向きを揃え、小銭も小銭入れに入れよう。

財布もお札が折れない長財布にしよう。

2. モノを大切に作る

モノを大切にすることは

「どれだけ気配りができるか」「どれだけ心に余裕があるか」のバロメーターだ。

だからこそ、逆説的に、モノを大切に作る習慣を身に付けることで、心に余裕を持たせ、気配りができる人間になろう、ということなのだ。

お金を貯めるためには「本当に必要なものにしかお金を使わない」というスタンスが必要だ。

つつい「あれも欲しい!」「これも欲しい!」と衝動買いを繰り返しては、お金は貯まっていかない。

そのためにも、一步引いて構えられる心の余裕が必要なのだ。

3. お金がなくても「お金がない」と言わない

口癖のように「お金がない」と言ってしまっていないだろうか。

この口癖はすぐに改めたほうがいい。

なぜなら「お金がない」というのは事実ではなく「口実（言い訳）」になっていることがほとんどだからだ。

すぐには買うことができない高額なモノを欲しいとする。

お金を貯められる人は、「貯めて買おう」と貯金を始める。

貯められない人は「お金がないから買えない」と諦めて、他のことで散財してしまう。

失業中の方や病気の方などは別として、会社勤めをしてお給料をもらっている人にとっては、「お金がない」という状態は実際にはない。

自分のお金の使い道をコントロールできる人とできない人、つまり「買いたい」という欲望をコントロールできるかどうかの違いなのだ。

「お金がない」のではなく、身の丈に合わない欲望をたくさん抱えすぎているのではないだろうか？

考えてみて欲しい。

4. できる範囲で他人のためにお金を使える

お金持ちになりたいからといって、自分のためだけにお金を使ってはいけない。

大切な人、好きな人への贈り物や親や家族へのプレゼント。
時には後輩への食事や飲みのおごりなど。

身の丈にあった「気持ち」を伝えるためにお金を使おう。

気持ちというのは目に見えないものだ。

目に見えない気持ちを贈り物という形にして相手に伝える。

大切なことだ。

ただ気をつけたいのは、くれぐれも「身の丈に合った範囲で」ということ。

見栄を張って後輩におごりまわったりするのは無意味だ。

バランスを考えて行動しよう。

5. 大きいお金を使うことに慣れている

お金が貯まる人になるためには、時として大きなお金を使う経験が必要だ。

サラリーマンなら自分の年収以上の規模のプロジェクトはざらだろうが、個人としても経験できることはたくさんある。

自分がどうしても必要なもの（こと）には決意を持って大きなお金を使う。

不必要なものには一切使わない。

これがお金の使い方だ。

自分を成長させてくれる資格や本。

自分の視野を広げてくれるであろうヨーロッパ旅行。

普段扱わない規模のお金を使うことで、視野が広がり、あなたを「お金が貯まる体質」に変えてくれるだろう。

ちなみに、僕はお盆に30万使う予定です。

6. 虫歯がないようにしている

お金を貯められるということは、「自己管理ができています」ということだ。

虫歯ができるというのは、借金をするのと同じことだ。

歯を磨かずに好きなものを食べ、歯が痛むのに歯医者にも行かない。だから虫歯はどんどん悪化していく。

それと同じように、好きなように買い物してお金がなくなるとリボ払いやキャッシング、そして借金は雪だるま式に増えていく。

7. もはやテレビを持たない

テレビは情報の密度と量のバランスが悪いと僕は思っているのでテレビ自体買っていないのだが、他の方に「まったく見るな」とは言わない。

情報収集の一環として観ることは悪いことではない。

ただ、テレビは時間をただただ奪うことを自覚しよう。

観る番組を予め決める。録画して後から再生で観るなど、「だらだら観」をしない工夫をしよう。

結論として、

お金をコントロールすることは、自分の欲望をコントロールすることです。

これで僕のお金の使い方がわかっていただけだと思います。

お墓に木を植える

今日、木を植えました。
隣には二年前に植えた木がありました。
ジャングルみたいになっていてドン引きしました。

そこで、帰りにお墓を見て思ったんですけど、
お墓は石じゃなくて、そこに木を植えればいいんじゃないか
と思いました。

やっぱり「石」ってどこか冷たくて寂しいイメージありませんか？
その点、「木」って生きてて、力強いって感じです。

僕が死んだ時は、石墓じゃなくて木を植えてほしいです

木を植えれば、死んでなお地球に貢献できます

また、お墓参り代行が儲かる時代です。
それほど、お墓参りはつまらないものです

だから、もし子供がお墓参りに来るときに
「おっ、お父さんの木、大きくなったなあ」
と少しでも楽しい時間が過ごせればいいと思います
下ネタではありません

僕は大きな墓の下で眠るのではなく、小さな木の下で眠りたい

でた、名言

外国語は本当に必要か？

高校とか大学で、くそほど英語を勉強したのに、全く喋れない。

というか社会人になっても、英語使う機会ないやん。

TOIECって何の役に立つの？おいしいの？

しかも、最近よく聞く話は、

「これからは中国市場だ! 中国語を覚えたら成功できる!」

「英語さえ話せれば、億万長者になれるのに・・・」

僕は分かりやすく一言で言います。

『中国語を話せて億万長者になれるんだったら

中国人は皆、大富豪になっている。』

英語もしかりです。

つまり、

『金持ちになりたかったら、ダイレクトに資産構築につながるスキルを身に付け、それ以外の事はとりあえず無視しよう』

中国語を話せて成功できるんだったら、チャイニーズは

皆すでに大富豪なのです。

英語を話せてビジネスがうまくいくのであればアメリカ人は皆、

大富豪になっているはずですよ。

でも、英語話せたらカッコいいだろうなあ・・・

知識を得て成長するための投資

学びや自分を進化させ収入を自動化するには、投資が必要です。

すでにある技術はお金を出して時間短縮してモノにすることが重要です。

多くの人は、目先の事しか見えていないため、投資が出来ないようです。

給料が入って来たら、資産に回す事なく月々の支払いに回し、
余ったお金で遊ぶ、欲しいものを買っちゃいます

一生金持ちの人は、資産に投資をすればそれが更に大きくなって帰って来るのを知っています。

だから、金持ちで居続ける事が出来るんです。

腹を空かせている人に食べ物をたくさん与えてあげるのではなく、食べ物の取り方を教えてあげる。

思考できるという資産を構築してあげた事になります。

そのおかげで今後腹を空かせる事なく生きて行けます。

ただ食べ物を与えてあげるだけだと、それが無くなったら、また腹を空かせる事になります。

お金を稼ぎ続ける事もコレと一緒にです。

一生金を持ち続けたいなら、常に自分の頭に投資してください。

そして、その他の資産にも金を惜しまず投資してください。

知識を得て成長するために投資しましょう！

海外旅行

僕は日々いろいろ考えるようにしています

なので他人からは変態のように見られます

あと理系なので何事も理由や客観的な物の見方をします

そこで、今回は海外旅行は果たして必要なのかが疑問に思いました

例えば、ある大学生Aさんは

A「この前に、スペインに行って、トマト祭りしました！」

僕「まじか、面白いところにいってるなあ」

A「それでなあ・・・」

というように会話が続くわけですが

彼は本当にトマト祭りに、スペインに興味があったのか

僕はそうではないような気がします

彼はスペインのトマト祭りに行った自分がかっこいい！と思いたくて行ったのではないかと
思うのです

もちろん、楽しみに行っているところもあると思います

しかし、他の人の話も聞いてみるとどうも「海外旅行に行くことで、理想の自分に近づくアイデ
ンティティーの形成」のために行っているように思います

それは、ブランドの服や車でもそうです

こんな物をもっている自分はかっこいい、可愛い

まあそんなことを思うと、ただ旅行に行くのではなく、何かを得るために、インドとかアフリカとか行きたいなあと思うのは私だけでしょうか

友達が多い方がいいのか？

「大学や社会に出て、友達いっぱい作りたいなあ」と思っていた時期もありました。

でも
友達は数が多ければ良いというわけではなく、どんな人と付き合っているかの方が大切だと思います。

親しくしている友だち5人の平均年収が自分の年収になることはよく言われますが、その原因は考え方が似てくるからなんです。参照・[お金の科学](#)

年に何千万稼いだとか、今月の収入が100万超えそうとか
そういう人達と一般収入の人たちが、価値観が一緒のわけありません。

また、すぐ「不可能だ」とか「難しい」と言う人と付き合っているとどうなるか。
自分も物事に関してすぐ不可能とか難しいという判断を下すようになります。
これでは成功の妨げにしかありませんね。

なので、「人脈を大切にすれば成功する」ではなく、「優れた人との人脈を大切にすれば成功する」ということです。

否定的な考えをする人との人脈を大切にする必要はないですし
どうも価値観が合わないなあ。
という人とも無理に仲良くなる必要ありません。

「一般的に友達が多い人のほうが成功しそうな気がしますが、実は友だちが多い人には金持ちは少なく、お金持ちになるほど友達は減っていく。」

と島田紳助が言ってました。
彼が言うと、ちょっとうさんくさいですが

その原因は、話のスケールがでかすぎて、相手が妬んできたり、変にへりくだって来たりするので、仲良くなれないそうですし、お金の価値観も異なってきて、昔の友達とも気が合わなくなってくるそうです。

友達が多い方がリア充感がでて、良いなあと思うかもしれませんが、本当に大切な友達は数名ではないでしょうか？

ワンランク上へ

学生のころは、エルメスやらヴィトンなんかは
恐ろしくて、行けなかったが
今は堂々と行ける自分にビックリしてます。

そして、実際話してみると、そのサービスはやはり素晴らしく
どこか「品」が出ています。

よく、経営者の方などが

「リッツカールトンに泊ってみたら？」

とか

「今の若者は、アウディーやティファニーとかに興味がないのは残念だ。」

というのは、ただ、若者の物欲のなさに悲しんでいるのではなく

最高級のサービスを知らないで、生きていくなんで、もったいない！

ということです。

そこには、たくさんの生きるヒントや発見があるはずです。

だから、背伸びしてでも投資だと思って、良いサービスに触れることを勧めているのですね。

また、気後れしなくなるというのも一つのメリットです。

高そうなお店に入ると、どうしても気後れして、自分らしくいれなくなることはありませんか？

学生の僕がそうでした。

そういう人って正直ダサくないですか？

彼らが、気後れするのって「自信」がないからなんです。

「僕みたいなもんがこんな店入って、場違いじゃないかなあ」

と思うから、気後れするのです。

例えば、プレゼンで考えてみると

課長にプレゼンするのに、上がってしまっ
うまくいかなかった人がいます。

でも、もう一人は、堂々とプレゼンしています。

彼が、なぜ堂々とプレゼンしているかという
彼はもう社長や部長レベルの人にプレゼンをしたことがある人だったからです。

彼は
「社長にもプレゼンをしたのなら、課長なら余裕だ！」

と思う自信が生まれたため、堂々と課長の前でプレゼンができたのです。

このように、ワンランクもツーランクも上のサービスに触れることで
新たな発見ができたり、自信がついたりします。

そこに差が生まれるのです。

なので、僕は日常でも仕事でも
常にワンランク、ツーランク上のレベルのことに挑戦していきます。

ホスピタリティー

僕は、サービスについてはディズニーとリッツカールトンが大好きです。

彼らのサービスを超える瞬間の名前を
ディズニーでは、ディズニーマジック
リッツカールトンでは、ホスピタリティー
と言います。

僕は、以前、ディズニーランドホテルに泊まったのですが
ホテルマンが
「今日は、魔法がかかったようで、違うお部屋にご案内いたします。」
と言って、ついていくと、そこはディズニーランドの真正面の最上階の一個下の部屋でした。

僕みたいな一庶民がVIPルームに泊まれる。
これこそディズニーマジックです。

それとどうようにリッツカールトンにも同様なサービスを超える瞬間があります。

ディズニーやリッツカールトンがこのようなサービスを行うにあたって大切なことは、個人の感性です。
一般的な人よりもはるかに上に行く感性。

それがディズニーとリッツカールトンにあります。

その感性を見に付ける方法が、[リッツカールトンのサービスを超える瞬間](#)に書いてあるので紹介します。

例えば、ペットボトルで水を飲むときに、口を付けますよね？

しかし、古来には必ずコップに注いでから飲むという美しい所作がありました。
だからリッツカールトンでは誰が見ていなくても、必ずコップに注いでから飲むことを徹底してきたんです。

裏方にいても必ずコップに移してから水を飲むホテルマンと、何も考えず直接ペットボトルに口

を付けて飲むホテルマンとでは、三年経ったとき、明らかに違いが出てきます。
一年じゃわからない。

でも、五年経ったら追いつけないほどの開きになる。

あるいは、背広は一日一緒に働いてくれたパートナーであり、大切な戦闘服ですから、ブラシをかけて、「今日も御苦労さま」と声をかけて洋服ダンスに掛ける。
靴も、毎日でなくても磨いて、木型に入れて下駄箱にしまう。

そういうことを意識している人と、靴を脱ぎ散らかして、何も考えずにまた翌日履いてくる人では、全く違う存在になるんですね。

そんな小さな事であっても、行動パターンを変えて自分の習慣にしてしまうと、今度は人の口や背広に目がいくようになる。

つまり、今までなかった視点が生まれるのです。

ディズニーとリッツカールトンが評価されているのは、そういう日常の小さな事、当たり前のことをやり続けて、自分たちの当たり前のレベルを上げていっているという、それだけなんです。

それだけで感性は磨かれていくんですね。

残業について

最近、残業についていろいろ考えていました。

たぶん、どこの企業もダラダラ仕事をして、残業代で稼いでいる人は多いと思います。

なんで残業代で稼ぐかというと、答えは簡単

お金が欲しいからです。

今の給料に満足していないし、たった一時間残業しただけで数千円ももらえます。

確かに、給料が少ない人にとって、こんなおいしい話があったら、残業しますね。

だから、残業代のために、ダラダラ仕事をしたり、どうでもいいような仕事を作ってしまう。その残業代分の仕事は、どのくらい利益を上げるのかという考えもない。

ドイツ人が

「日本人は仕事の効率が悪い。だって、そんなに長い時間、仕事に集中できるわけないからね。」

と生産性の悪さに皮肉を言うほど、残業してます。

でも、この残業って[「富士通の成果主義の崩壊」](#)にあるように、非常に危険です。

簡単な話、みんながダラダラ残業しだしたら、会社の業績は悪化し、基本給は減ります。

それで、リストラが始まります。

あの人の松下が大量のリストラをしている時代です。

自分に関係ないって人は、マジで危険です。

あと、残業する人は年をとっても、残業する羽目になります。

なぜなら、管理職って、だいたい年俸制で、残業代って出ないじゃないですか。

そんな管理職から見れば、たとえ同じ時間の残業をしても、部下はガラガラ仕事をして、残業代を稼いでいるとしか見えないでしょう。

逆に、定時にきっちり仕事を終える人は、課の労務費も下げてくれて、自分の為に、頑張ってくれる可愛い部下。

だから、残業代で稼いでない分、評価を高くして、賞与や出世を増やしていく。

sonでもって、残業代で稼いでいた社員は、賞与が少なく、出世できなかった分、またガラガラ残業してお金を稼ぐ。

このデフスパイラルに突入します。

みなさんも想像して見てください。

残業ばかりしている人って、仕事ができるイメージありますか？

でも、ここで注意したいのは、上司の中には、残業した部下の方がいっぱい仕事をしていると勘違いする上司がいることです。

そんな上司って、だいたい思考が停止しています。

しかし、そんな上司が日本には多いのも事実。

でも、企業はこの残業代に目をつむっているのはなぜでしょうか？

それは、どの企業もそうかもしれないが、人事部門が実際の現場を知らないからです。

入社時から人事部門に配属され、制度や就業規則をみっちりたたきこまれる。

でも、その視点は常に人を上から見下ろすものであり、現場の従業員の視点ではない。

だから、現場から上がってきた資料を見ても、そこにある数字と実際に現場で起こっていることのギャップに気がつかない。

なぜ彼らはの視点は、従業員目線ではないのか。

それは彼らの仕事の相手は顧客でも市場でもない。
常に従順で物言わぬ社内の従業員たちだからだ。

だから、彼らは無駄な残業代があることに気がつかない。
もしくは、人事部自体も、無駄な残業を積み重ねている可能性もある。

こんな企業を見ると、僕は危険だなあと思います。

社員の中には、自分の会社に誇りをもち、将来安泰と疑わない人もします。

自分の会社に誇りを持つのは良いが、今の世界を見ると
大企業でも安泰はありません。

また、松下を例に出しますが、
「45歳以上の社員は必要ない。」と松下電器の社長が言い放つほど、企業経営は不安定です。

まとめますと、
目先の残業代の為に、よく残業している人は、後で痛い目に遭いますよとのこと。

おしまい。

あなたは今、幸せですか？

僕は車に乗って、珈琲を飲みに行くだけでも

「車作った奴、天才やなあ。」とか「ブラジルの珈琲をこんなところで飲めるとか、なんてリッチなんや。」

とか考えます。

そう。このグローバリゼーションによって、僕たちはあらゆる自由を手に入れた。

一昔の王様よりも確実に良い暮らしをしています。

でもなぜか、それに見合うだけの幸福をみなが味わってないような気がします。

今、多くのモノによって、満ち足りた気分や安心感を味わっているかもしれませんが、日本人の幸福度が高まっているという話は聞いたことがありません。

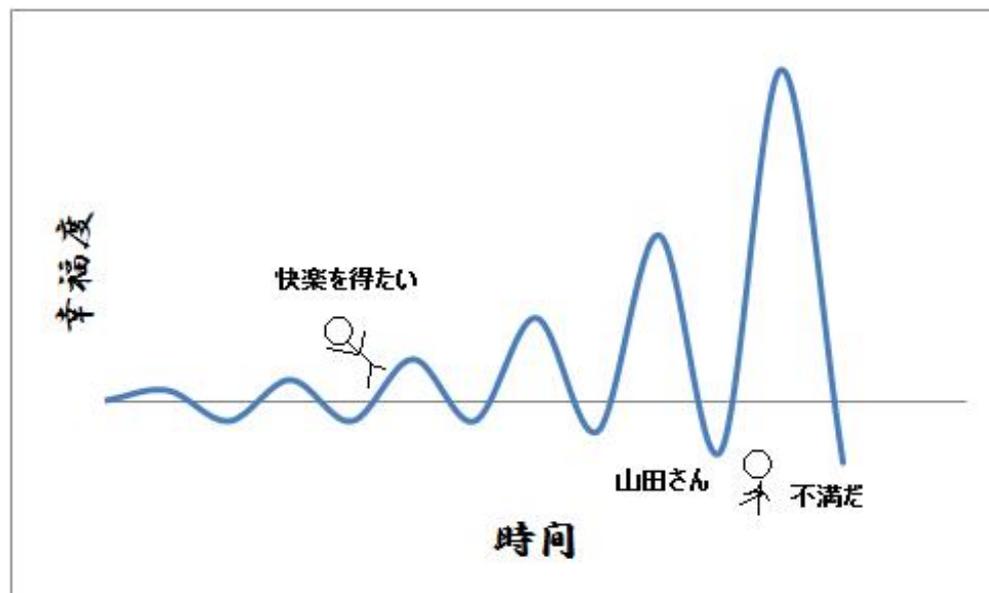
山田さんが思うに、

モノによる幸福ってそのときは

すごくハッピー！と思うかもしれませんが、徐々にその幸福は薄れ

今度はあれが欲しいなあ

さらなる難易度の高いモノを得ようとする。



そして、難易度の高い買い物をして、

また買った時はすごく幸せなのに、すぐにあきてしまって、また不満になる。

そんなスパイラルを繰り返して、幸せは得られるのでしょうか？

だから、日本人はこんなにも裕福なのに、幸福度が低いのだと思う。

あと、余談なのですが[人生がときめく片づけの魔法](#)に

貧乏な人ほど、部屋にモノがあふれ、
裕福な人ほど、部屋にモノが少なく、綺麗。と書いてありました。

きっと、しっかりしている人はモノの重要性、
つまり、役に立たないモノが人を幸せにすることがないことを知っているのでしょう。

で結局、何が幸福に影響するのか。

なぜ今、幸福度が低いのかを考えたとき、
人と人との関係が味気ないものになりつつあることに答えがあると思いました。

誰もが新しい情報技術とコミュニケーションを通じてつながっているように見えながら、
人と人との関係は、はかなくもろいものになっているような気がします。

そう。
今、たくさんの人がかつてないほど、孤立感にさいなまれているのではないか。

そうでなければ、日本人のこれほどの自殺者の増加はありえない。

あなたは身近な人と最近、連絡を取り合っていますか？
会話をしていますか？

幸福は、車にも家にもブランド物の服にも家電機器にもありません。
忘れてしまいそうなくらい近くに、います。

あなたは今、幸せですか？

エクス・フォメーション

将来、僕たちが活躍するには、エクス・フォメーションがカギとなる。

・・・エクス・フォメーションって？

イン・フォメーションはその名の通り
内に形創る。

外からの情報を受け入れて、自分の中に認識を形創ることだ。

それに対して、エクス・フォメーションは、外に形創る。
自分の内にある認識を、外へ形創っていく。

イン・フォメーションは、世の中から求められている自分を創る。

エクス・フォメーションは、自分が求めている世の中を創っていく。

これまでの学習って、情報を得ることが重視されてきました。

しかし、それが決定的に変わった。

それは、インターネットの普及だ。

これは情報を得るためのネットワークがもはやインフラになってしまって
今やググれば、情報はすぐに手に入る。

まさに、水道の蛇口をひねれば水が出るように
情報も、検索すれば、水のように出てくる。

このように、情報の価値がなくなってしまったのです。

以前、テレビでおバカ芸人が流行りましたよね？

それって、昔は知識を記憶している人が褒められてたけど
今は、おバカな答えをする方が評価されてるってことです。

なぜなら、そこに検索できない答えがあり、そこに価値があるからだ。

だから、これからエクス・フォメーションは、とても重要になる。

僕がブログをやるのも、イン・フォメーションのアンテナを張るだけでなく
エクス・フォメーションに価値があると考えているからだ。

普通の企業に、働いていたなら、1を10にする仕事が多いと思います。
なぜなら、ある程度の基盤がすでにそこにはあるから。

でも、0から1を創るのって、相当なエネルギーが必要です。

企業に頼らず、1人でお金を稼ぐことも、この0から1を生むことです。

みなさんも一度は、0から1を創り出す経験をしてみることをお勧めします。

考える人へ。

<http://ryoucoro.blog.fc2.com/>

著者 : rYou

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/dtk0598/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/58793>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/58793>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブックログ